

と同様の助成体系として、野菜産地の育成を考えている。

また、平成21年度当初予算において計上している野菜等産地消推進モデル事業費補助金の内容は、農産物直売所等への出荷を目的に露地野菜の栽培、または、特別栽培米(合鴨米)を栽培される農家等に対し、その生産資材に対して一定の補助を考えている。

問 農家所得を確保するための販売計画について伺う。

産業振興課長 現在計画されている農産物直売所、農家レストランにおいて消費することを考えているが、そのほかに給食センターやイオンスーパーセンター内にある産直コーナーのようなインナーショップ等への出荷を考えており、以上で消費できない状況となれば、JAの協力を得ながら各市場への出荷が可能であることから、生産されたものが無駄にならないようなことがないように

努力することで、農家所得は確保できるものと考えている。

問 大木町を通過するバイパスが全線開通となるが、バイパスが完成すれば現在の442号は格下げとなり町道移管となるが、八丁牟田駅周辺を除いて全く整備が進んでいないが、町として国、県に対してどのように取り組んでいかれるか。

建設課長 国道442号バイパスについては、平成21年度全線開通を目標に、県において事業が進められている。柳川土木事務所管内については、平成21年3月11日に大角古賀地区の旧県営住宅跡地南側の交差点から、福岡地区の山の井川西側の、県道江島筑後線までが開通したことにより、大川から大木までの区間が全線開通となったところである。

また、国道442号の現道整備については、八丁牟田交差点改良、及び自歩道の設置

等の要望については、柳川土木事務所に強く要望している。

問 八丁牟田交差点改良について伺う。

建設課長 平成20年度中に、柳川土木事務所管内において関係者の協力を得て、現地測量が完了し、現在、大川警察署と交差点協議を行っている。

平成21年度の上半期には、地元説明会を開催する予定にしているが、町としては、なるべく早い段階で地元説明会を開催できるように要望をしているところである。

なお、交差点改良によつて、



八丁牟田交差点

右折車線が国道442号側と久留米柳川線側の、4箇所すべてにできることとなる。また、歩道も設置することになる。

問 歩道の設置について伺う。

建設課長 農協スタンドから県道大和城島線までの自歩道整備と、八丁牟田交差点から八丁牟田下地区のお宮北側までの、2箇所の路線を柳川土木事務所へ要望を行っているところである。

柳川土木事務所より、バイパス建設の関係で現道の整備については、用地買収を伴わない整備は可能であるが、用地買収を伴う道路改良及び自歩道の整備はきびしいとの回答を受けている。

問 側溝等の道路施設の改良について伺う。

建設課長 現道の国道442号の側溝や擁壁、又は舗装の状況を平成19年度に現地調査を行い、平成20年1月に歩道整備を含めて、要望書を

提出している。

側溝や擁壁又は舗装工事の実施時期については、明確になっていないが、町道への移管の関係もあるので、県としては早い時期に工事着手したいと考えている、との回答を得ている。

町としても早急に工事着手できるように、要望しているところである。

なお、町道移管については、現道の国道442号について、柳川土木事務所より町道として認定するよう要望がなされている。

側溝や擁壁又は舗装の整備を実施し、整備が完了してから町道移管となり、その後に、町で維持管理することとなる。

移管の時期については、現段階では明らかになっていない状況である。

国道442号は、町の主要な幹線道路であるので、今後も県に対して、要望箇所の整備ができるよう要望していきたいと考えている。